

埼玉の 暮らしと 社会保障

2022年11月1日発行 第319号
(毎月1回発行)
発行 埼玉県社会保障推進協議会
〒330-0064 さいたま市浦和区岸町7-1 2-8 自治労連会館1階
TEL 048-865-0473 FAX 048-865-0483
ホームページは「埼玉社保協」で検索ください

#いのちまもる 医療・社会保障を立て直せ 10・20 総行動



10月20日、日比谷野外音楽堂で「#いのちまもる 医療・社会保障を立て直せ！10・20 総行動」がおこなわれ600人が参加しました。同時にウェブ参加が500人ありあわせて1100人が結集しました。埼玉土建からは25支部と本部から52人が参加しました。

主催者あいさつで日本医労連の佐々木悦子委員長は、岸田政権が医療提供体制の強化どころか受診抑制、病床削減を強行する一方、軍事費は青天井に増え続けているとし「今こそ大軍拡ではなく国民の命第一でと暮らしを守る政治に転換を」と呼びかけました。

トークショーではお笑い芸人の「せやろがいおじさん」が沖縄の基地建設の現状を軽妙に語りました。政党からは日本共産党の小池晃書記局長は、75歳以上の医療費窓口2倍化について「現役世代と高齢者を対立させる考え方は間違いだ。現役世代も高齢者も、国が責任をもって支えるのが社会保障だ」と批判。社会保障予算の削減を続けながら軍事費を5兆円も増やすことなど許されないと訴えました。

立憲民主党からは吉田つねひこ衆議院議員が「マイナンバーカードの保険証利用にともなうオンライン資格確認は医療機関に重い負担を強いる。国会で追求したい」と語り参加者を激励しました。

各分野からリレートークでは、医療や介護、保育の大幅人員増、賃上げを訴え、続くパレードでは「軍事費削減で社会保障に回せ」とアピールしました。

(埼玉土建一般労組 社会保障対策部 書記 浅野長昭)

憲法を守りまともな政治を取り戻すたたかいが必要 臨時国会行動埼玉デー



臨時国会、第1波の国会行動・埼玉デーが10月12日に取り組みられ、6団体41人、埼玉土建は20支部と本部から32人が参加しました。塩川鉄也衆議院議員と伊藤岳参議院議員が激励に駆け付け、塩川議員は「国葬や統一教会の問題で岸田政権に対する批判が強まっている。憲法を守りまともな政治を取り戻すたたかいが必要となっている。国民の声をバックに国会で頑張りたい」と語りました。伊藤議員は「安倍元首相の国葬の当日、国会前に15000人が参加し国葬反対集会が行われた。法の下での平等と相いれないことに怒りがあふれていた。怒りを力に変え憲法を無視する政治を変えていきたい」と発言しました。各団体から取り組み報告の後、埼玉土建は、①インボイスと消費税、②憲法と核兵器禁止条約の要望

(埼玉土建一般労組 社会保障対策部 書記 浅野長昭)

第31回埼玉社保協総会

日時 12月17日(土) 13時～
会場 さいたま共済会館601会議室
詳細はチラシにてお知らせします。

「年金上げる」

4年ぶりに年金者一揆・フェスタで 銀座デモ



年金者組合は、昨年0.1%に引き続き今年4月から0.4%削減された年金額、合わせて10月から病気診療のため医者には掛かれれば窓口負担が2倍化になり恋札者にとっては踏んだり蹴つたりの生活を強いられている高齢者の怒りを爆発させた「物価高騰に見合う年金額の引き上げをもとめる4年ぶりの「年金一揆・フェスタ」を10月21日、日比谷野外音楽堂に1都3県の年金組合員1300人が結集して開催しました。

集会は全労連共催で、年金者組合埼玉県本部は400人が参加し、埼労連・新島議長も埼労連の旗を持って参加しました。

集会は「これまでの年金引き下げ反対」という受け身の運動から「年金額と賃金を引き上げ、消費税は下げろ」という運動を全国的に行うことを決議し、「年金上げる」運動を攻勢的に展開していくことをための年金一揆の集会でした。この日の集会を目指して署名簿も「黄色の署名用紙にひとり一枚署名で、しかも「わたしもひとこと」欄を設け高齢者の怒りの声、思いのたけを岸田首相に届けるもので当日集計で4300名余の署名が壇上に積み上げられました。「高齢者、年金受給者の怒りを受け止め、高騰する物価に見合う年金引き上げをおこなえ」「年金は高齢者の命綱。高齢者を邪魔者扱いにせず大切に扱え」などの声がびっしり書かれた署名簿は映画「幸せの黄色いハンカチ」になぞられ、「年金引き上げの幸せの署名」で、近年にないいつでもどこでも誰でもの要求にぴったり一致した署名で、各支部から追加で100枚、200枚ほしい、と要求があった署名です。集会後、梶橋まで銀座パレードで「銀座デモ」を行い、銀座を歩く人々も黄色い幟旗や元気にいい高齢者のシュブレーヒコールに盛んに声援を寄せていました。

集会には「むしろ旗川柳」も全国から募り、埼玉県本部桶川支部の星野紀治さんの「足腰がダメでも口があり知恵もある」が最優秀賞に選ばれました。

3年越しの開催 オンラインも含め約14,000人参加

日本母親大会 埼玉・群馬で



第67回日本母親大会が、分科会は10月15日に埼玉県内で、全体会は16日に群馬・高崎市で開催されました。コロナ禍で沖縄大会が2021年に延期になったため、3年越しの開催となりました。また、沖縄大会は完全オンラインで行ったため、会場でのリアル参加とオンライン配信併用の初めての大会となりました。全国からどのくらい参加があるのか、通信状況はどうなるのかなど、様々な心配があった中、2日間でオンラインも含め約14,000人が参加、埼玉県内からも約1,300人以上の参加となり、成功しました。

15日は、平和、ジェンダー平等、気候正義の3つのテーマで問題別集会、分科会は「コロナ禍学校は今」「社会保障と税」「いきいき働き続けるために」の3つ、特別企画として「あの日のオルガン」の上映、草加と熊谷で見学分科会が行われました。社会保障の分科会の助言者は、社保協副会長の原富悟さんです。女性が多い非正規、のケア労働者への支援が必要、女性の年金が低いのは賃金が低いから、ジェンダー平等への最優先課題にすべきと、全国からの参加者が熱く語り合いました。

全体会では、久しぶりの会場開催に「この雰囲気味わえてよかった」「沖縄から北海道まで集まって、熱気を感じた」との感想が寄せられました。法政大学元総長の田中優子さんは講演の中で、女性はもっと活躍すべしと激励、自民党の憲法草案の危険性を改めて語り、多様性を大事にする社会は幸せな人が増えると力強く訴えました。埼玉からは基地のたたかい、オール埼玉やレッドアクションの行動を紹介、県の母親大会でのとりくみから運動を引き継ぐ決意を若い世代が発言し、大きな拍手をもらいました。

(新婦人埼玉県本部 高田 美恵子)

～まちから村への連帯で、 ひとりぼっちの高齢者をなくそう！～

第27回埼玉県高齢者大会開かれる

27回目を迎えた埼玉県高齢者大会が10月24日、さいたま市民会館おおみやで行われ、県内各地から120人以上が参加されてました。この集会は年金者組合、埼玉生連、医療生協や埼玉社保協も加わる実行委員会の主催で行われました。

10時15分にオープニングが行われ「植竹しげ子と仲間たち&イチャパリー」による琉球古典舞踊、島唄と踊りが披露されました。

午前の部は全体会、午後から分科会行われました。全体会の記念講演では元外交官の孫崎享(まごさき うける)さんが「ロシアのウクライナ侵略と憲法9条」をテーマに日本外交のあり方、平和外交の努力について語っていただきました。講演について「語りかけるような口調で熱意あふれる講演、一つの事柄多方面から見・考える事の重要性を気付かされました。日本のメディアが政府のたれ流しの情報しか流さないとは、知っていても目の前の事件、つい流されてしまうと反省しました。」という感想が寄せられています。敵対勢力を作り、過去の約束を無視する事で対抗する勢力を形成している事や「相手国を勝利させない、しかし一方で徹底的に追い出さない」、武器の提供が長期化することを望む軍事産業の存在など、多角的に情勢を見る必要があります。戦争を長期化させたい勢力に加担することなく、双方の主張にどのような妥協点が見出されるか、停戦の可能性が見出す事が重要だと思いました。自公政権は敵基地攻撃論を主張しています。相手国の軍事能力をすべて探し出し破壊する事など不可能で、結局長期の戦争状態になるのは明らかです。国民の生存=いのちを最優先にする政治への転換がどうしても必要との思いを強くしました。



午後からは5つの分科会に分かれ学習と交流を深めました。

①水川神社参道散策、②「本田宏さんと考える医療崩壊」、③「権利としての生活保護」(講師・笹井敏子埼玉生連会長)、④「いまこそ核兵器のない平和で構成な世界を」(講師・県原水協の伊藤稔さん)、⑤「統一協会・勝共連合って何？」(講師・元富士見市議の綾好文さん)

(埼玉社保協 川嶋芳男)

第43回埼玉障害者まつり 3年ぶりの笑顔に会えた



『あの人に』会いたい! 『あの人と』話したい!! ～守ろう平和な社会 進めよう! 豊かな社会福祉～、10月9日(日)埼玉県障害者交流センターを会場に、1,200人が集いました。

リアルに移すということで、準備は様々の困難にぶつかりました。まだ、感染が減少とは言え、準備する側にも、コロナへの警戒心と感染を広げてしまうという危惧。会場となる交流センターもブランクの中、駐車場にプロレスリングをなど、イメージの共有も必要でした。

3年ぶりに、プロレスを呼ぶことができました。参加者を大いに盛り上げてくれました。

中央ステージでは、メンバーが障害児のお母さん方を中心に和太鼓の演奏、日ごろ練習の成果発表し、ともしびのうたごえ、障害児学校OBのバンド演奏、ベリーダンスの方たちと一緒に踊る場面など。

2階では「平和と戦争展」、点描画展を含む美術展。年金問題の相談、真剣に聞く人。

シンポジウムは、テーマが「障害者と平和」。戦争体験のある肢体障害の方から、『戦争の役に立たない者は非国民なんですよね。障害者は米を食っているだけで、』と言われていた」と力を込めた発言がありました。また、自身の出身校である肢体不自由校が疎開した当時のことを資料を基に発言、「核兵器廃絶」「日本軍慰安婦問題」などの報告もありました。

模擬店は、数は少なかったのですが、焼き鳥のいいにおいが雰囲気をも盛り上げ、食べ物だけでなく床屋さんがいったり、どんぐりアートの作品も。マッサージコーナー、リピーターも。

軽快なリズムに合わせ、会場にみんなで踊ったフィナーレ楽しいまつり象徴しましたが、最後のあいさつは、実行委員会を代表し、「準備は大変でした。あと何回できるか。続けるにはみんなの力が必要と」

(障埼玉連 事務局長 若山孝之)



